

認知科学って何？

—人間の認知・知能のしくみを探る—

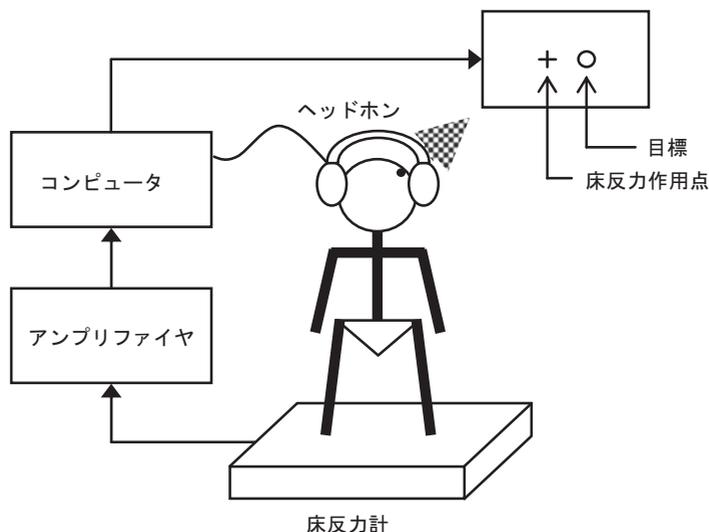
小堀研究室

家庭にもパソコンが普及し、ゲーム、ワープロ、インターネットといろいろなことができるようになりました。でも、それらは本当に便利でしょうか？ もっと融通が利いたらと思うことはありませんか？ 人間の方が優秀だということはまだまだたくさんありますよね？ では、どうすれば、コンピュータはもっと便利に、また賢くなるのでしょうか？

その答えのひとつが、人間の優れた認知や知能のしくみをもっと調べて、それを応用するという方法です。本研究室では、そのような「認知科学」と呼ばれる分野で、人間の運動や知覚や知能について調べる研究を行っています。

研究の題材としては、図形の認識から身体や手の動き、迷路やトランプゲーム、楽器の演奏まで、さまざまなものを用いています。

研究室公開では、知覚・運動や記憶の能力を調べる実験のデモを行い、研究内容について紹介します。



視覚障害者にも適用できる体重移動動作測定システム

アイカメラで探る人間の認知

一目は口ほどにものを言う？

小堀研究室

「目は口ほどにものを言う」という言葉があるように、人間の目の動きを調べることで、ものを認識したり、ものごとを考えたりする過程（認知過程）を知ることができます。そうした目の動きを測定する装置をアイカメラ（眼球運動測定装置）と呼びます。

本研究室では、アイカメラを用いて、人間の優れた認知や知能のしくみを調べて、それを応用するという研究（「認知科学」と呼びます）を行っています。たとえば、錯視図形を認識しているときや楽譜を見て楽器を演奏しているときの目の動きを測定し、分析しています。他にも、迷路の探索やトランプゲームのプレイなど、さまざまなものを題材に用いています。

研究室公開では、アイカメラを使った実験のデモを行い、研究内容について紹介します。



アイカメラによるギター演奏者の視線の測定